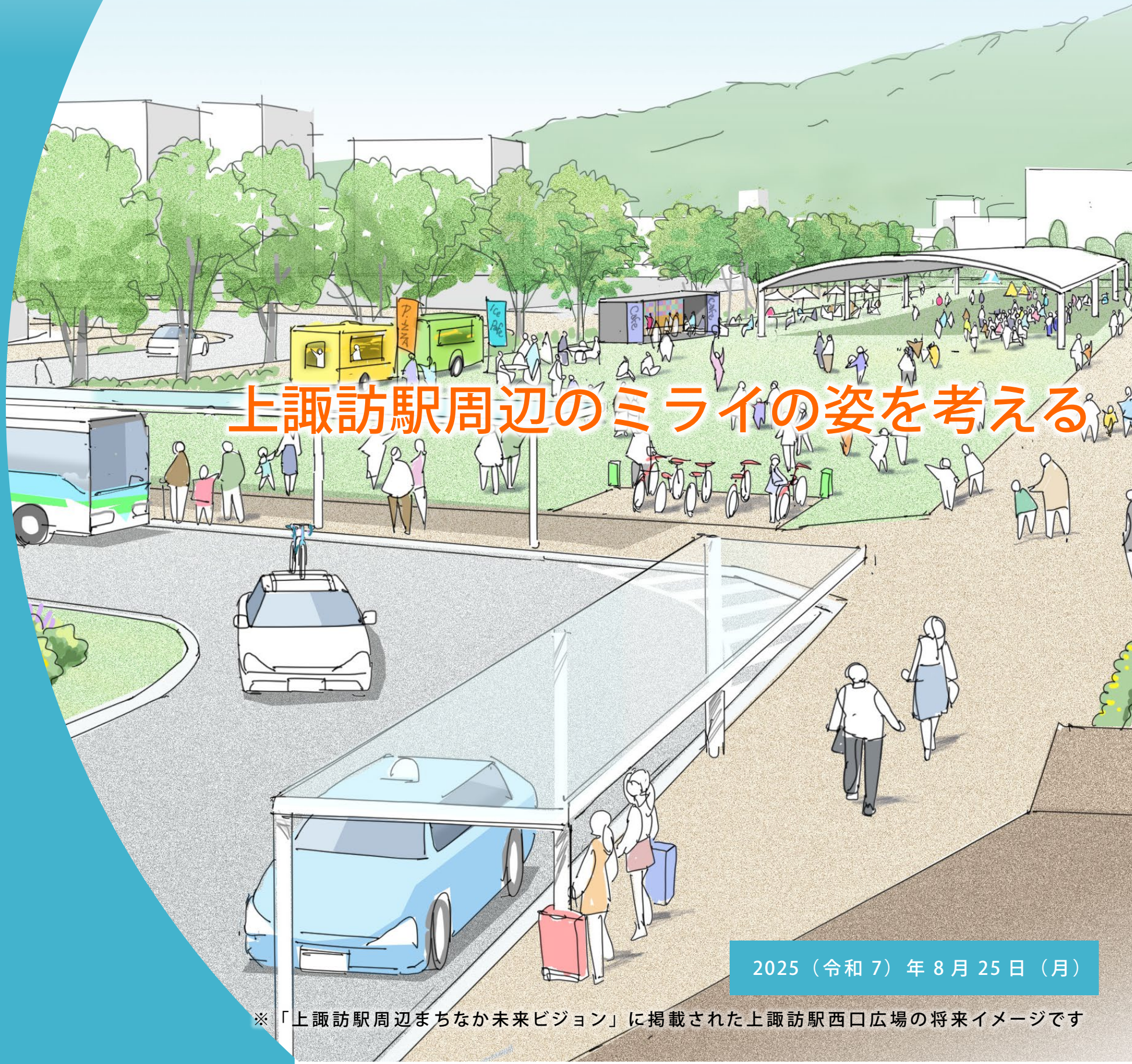


Contents

- I. 上諏訪駅周辺地区整備基本構想検討委員会について
（時点修正版）
 1. 検討委員会の設置目的について
 2. 第二回検討委員会について
- II. 第一回検討委員会の意見を踏まえた追加修正について
 1. 現況整理の追加項目（観光）
 2. 整備基本構想検討にあたり必要な視点の整理
- III. ミライ像（将来像）とミライ方針（基本方針）について
 1. ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）について
 2. ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）の参考イメージ
- IV. 機能・ゾーニングの検討について
 1. 東西の役割分担（案）について
 2. 機能・ゾーニング（案）について
 3. Step1（案）とStep2（案）の空間
 4. イメージ
- V. 参考
 1. 市民が求める機能とその空間イメージ（第二回 WS 結果まとめ）
 2. 駅舎橋上化事例



2025（令和 7）年 8 月 25 日（月）

※「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」に掲載された上諏訪駅西口広場の将来イメージです

Ⅰ. 上諏訪駅周辺地区整備基本構想検討委員会について（時点修正版）

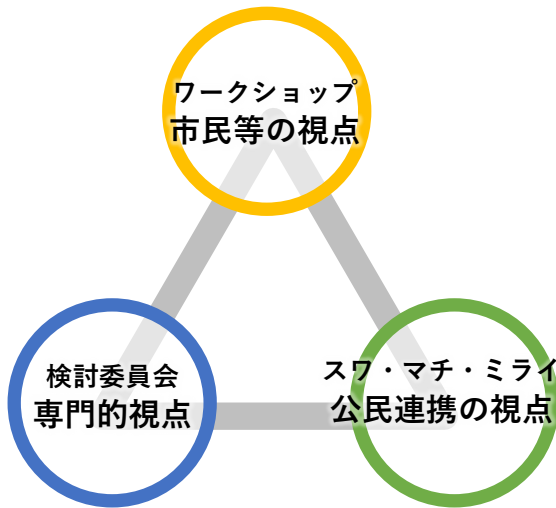
1. 検討委員会の設置目的について（第1回検討委員会資料より）

- 「上諏訪駅周辺地区整備基本構想（案）」（以下、「基本構想（案）」という）を2025（令和7）年度に策定することを目指し、駅周辺における有効的な土地利用や活気あふれるまちづくりに向けた、専門的かつ幅広い分野の意見を聴取するため、「諏訪市上諏訪駅周辺地区整備基本構想検討委員会（以下、「検討委員会」という）を設置する。
- なお、基本構想検討にあたっては、ワークショップ等による「市民の視点」、公民連携プラットフォームであるスワ・マチ・ミライ等との連携による「公民連携の視点」、検討委員会での「専門的な視点」の三位一体の視点で検討を行うこととする。

2. 第2回検討委員会について

- 検討委員会は計4回を予定し、第1回では市や駅周辺の現況特性を共有し、検討の視点について意見をいただいた。
- 第2回となる今回は、第1回検討委員会及び、2回にわたるワークショップでの市民の意見を反映したミライ像・ミライ方針や、それらを踏まえた機能ゾーニングの検討について協議を行う。
- 将来の公共空間の使い手や担い手となる市民の想いを可能な限り反映するため、ワークショップや社会実験により市民等のニーズや想いを確認し、検討委員会での共有を図る。
- 2026（令和8）年度前半に基本構想策定を目指し、これにもとづく西口駅前広場整備を行い、2030（令和12）年度末の供用開始を目途に進める。

基本構想の検討体制

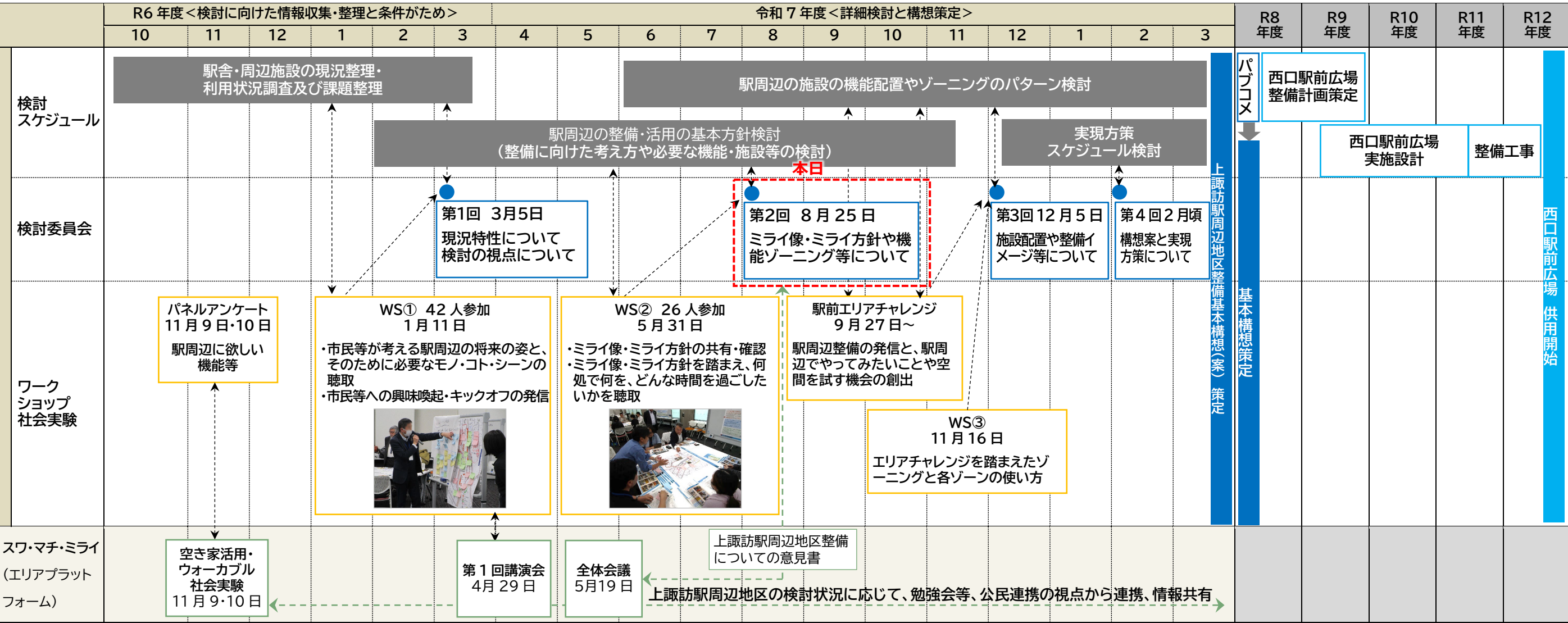


検討委員会の内容

回	内容
1	・基本構想・検討スケジュール等について ・現況特性（第1回ワークショップ結果等を含む）について
2	・第1回検討委員会を踏まえた追加・修正について ・ミライ像・ミライ方針について ・機能・ゾーニング検討について
3	・機能ゾーニング・配置パターン・整備イメージについて ・エリアチャレンジ・第3回ワークショップ結果について
4	・基本構想（案）について ・整備に向けた実現方策・スケジュール等について

本日

■検討スケジュール



II. 第一回検討委員会の意見を踏まえた追加修正について

2. 整備基本構想検討にあたり必要な視点の整理 (赤字：第一回検討委員会の意見反映)

現況の特性と問題点、及び第一回検討委員会の意見を踏まえ、整備基本構想検討にあたり必要な視点を整理する。

項目	特性（活用すべき視点）	問題点（改善すべき視点）
駅利用・立地	【駅利用】 ▶ 上諏訪駅は、長野県第3位の主要観光地の駅として「<u>県内外の来訪者</u>」や、定期利用率が高いことから「<u>高校生等の通学・通勤者</u>」利用が想定 【立地】 ▶ 区域周辺は、「<u>住宅</u>」をメインに、<u>徒歩圏内</u>に「諏訪湖（湖畔公園、諏訪湖サイクリングロード）」や「<u>上諏訪温泉</u>」をはじめとする「<u>観光施設・資源</u>」の他、「<u>歴史、商業施設</u>」等の「<u>様々な特性をもつエリア</u>」をもつ ▶ 区域は、「<u>様々な特性を持つエリア</u>」をつなぐ中心に位置 ▶ 区域東側には、東西自由通路が連絡する商業・公共等の複合施設「<u>アーク諏訪</u>」が立地	【立地】 ▶ 「<u>諏訪湖</u>」「<u>上諏訪温泉</u>」の他、高島公園（高島城跡）や昔ながらの歴史を感じる街なみや酒蔵等の「<u>観光施設・資源</u>」が駅から<u>徒歩圏に分散立地</u>するなかで、滞在や来訪の中心となるエリアが<u>分かり難い</u>
	必要な視点 <u>公共交通の利用促進と、観光施設・資源や各エリアを結ぶ「まちの中心」、</u>「<u>多様な人が集まる拠点</u>」としての役割	
土地利用・機能	【土地利用】 ▶ 区域内の土地は、公的な機関3者（諏訪市・土地開発公社・JR東日本）が所有しており、<u>土地の有効活用がしやすい</u> 【機能】 ▶ 区域内に緑豊かで、<u>市民活動で活用される柳並公園が立地</u> ▶ 区域東側には東西自由通路を連結する「アーク諏訪」内に、<u>子育てや高校生の居場所となる公共施設「すわっチャオ」が立地</u>	【土地利用】 ▶ 駅前広場、駅舎・駅関連施設、法務局の他は、<u>区域面積の23%が駐車場で低未利用となっている</u> 【機能】 ▶ <u>地域住民に身近な公園、オープンスペースが不足</u> ▶ 公民連携による活動が推進されるなか、<u>市民ニーズが高い自由利用可能な空間や交流に供する空間が不足</u>
	必要な視点 <u>土地の有効活用・機能分担を図り、市民が求める多様な使い方・過ごし方が可能な空間を試行しながら柔軟に確保</u>	
道路動線	【自動車ネットワーク】 ▶ 広域的な道路ネットワークの整備により<u>諏訪湖スマートインターチェンジから駅までの自動車のアクセス性向上</u> 【歩行者ネットワーク】 ▶ 区域周辺は、<u>歴史的な道路やヒューマンスケールで趣きある道路も多い</u>	【自動車ネットワーク】 ▶ 諏訪湖スマートインターチェンジ開通後のまちなか自動車交通量の増加が<u>懸念</u> 【歩行者ネットワーク】 ▶ ウォーカブルを推進するなか、<u>駅から特徴ある周辺エリアへのアクセス動線が不明瞭</u>
	必要な視点 <u>広域的な「交通結節点」としての役割の他、市街地への安全でスムーズな誘導や、回遊の起点となる役割</u>	
交通施設		▶ <u>鉄道により東西が分断されており、東西で施設規模、機能に偏りがある</u> ▶ 東口は、朝夕の一般送迎が多く、<u>自動車、歩行者ともに交通量が多く、交錯が見られる</u> ▶ 西口に改札口がなく、東西連絡は改札外の東西自由通路のみであるため<u>東西のアクセスが不便</u> ▶ <u>周辺道路状況や新たなモビリティ需要の変化への対応</u> ▶ <u>交通事業者の担い手不足</u>
	必要な視点 <u>交通事業者と連携強化を図り、東西敷地規模やモビリティ変化・担い手不足を考慮した適正な機能配置、アクセス改善</u>	
観光	▶ 諏訪エリアの3駅（岡谷市、下諏訪町、諏訪市）で最も<u>諏訪湖に近く、西口は観光面でポテンシャルが高い</u>	▶ 諏訪湖花火大会が市内行事で一番の集客力があるが、<u>駅や駅から諏訪湖までが混雑（通常時の約46倍）</u>
	必要な視点 <u>諏訪湖に近いポテンシャル活用の他、来街者のピークを踏まえた動線確保や適切な機能配置</u>	
景観資源	▶ 諏訪市民が誇る「<u>諏訪湖</u>」や「<u>山なみ</u>」への眺望景観 ▶ <u>徒歩圏内</u>に「<u>諏訪湖</u>」や「<u>上諏訪温泉</u>」をはじめとする「<u>観光施設・資源</u>」が立地し、特に<u>諏訪エリアの3駅で最も諏訪湖に近い（再掲）</u>	▶ <u>諏訪の魅力の情報発信や案内の不足</u> ▶ 柳並公園を中心に<u>区域全体の鳥のフンによる、衛生的、景観的な問題</u>
	必要な視点 <u>市民が誇る諏訪の魅力（諏訪湖、温泉、歴史・自然資源）を活かすとともに、分かりやすい情報発信や適切な維持管理</u>	

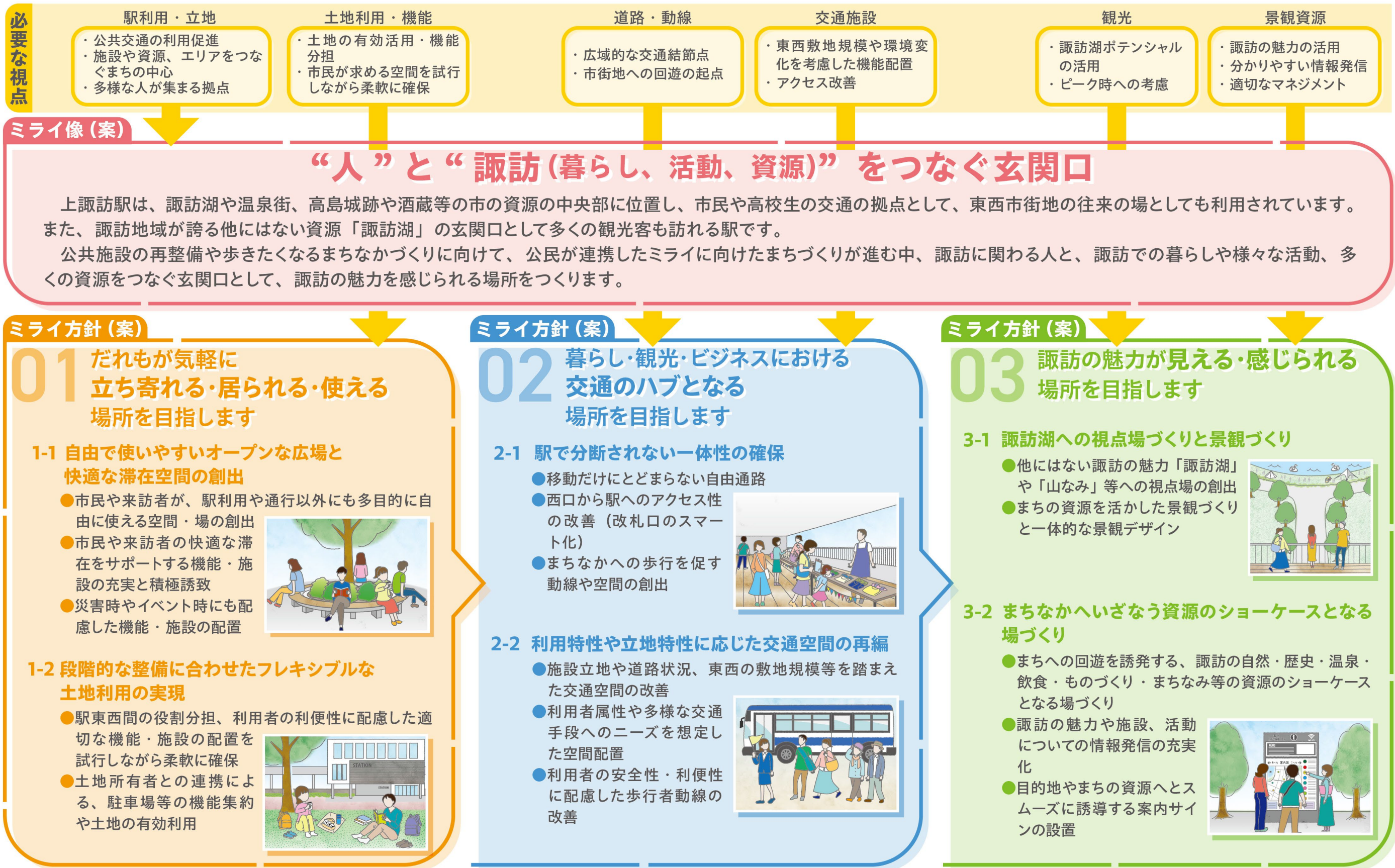
■ 特性と問題点図



Ⅲ. ミライ像（将来像）とミライ方針（基本方針）について

1. ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）について

現況特性、第一回・二回の市民ワークショップや整備検討委員会での必要な視点を踏まえ、ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）を整理する。



Ⅲ. ミライ像（将来像）とミライ方針（基本方針）について

2. ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）の参考イメージ

01 だれもが気軽に立ち寄れる・居られる・使える場所を目指します

1-1 自由で使いやすいオープンな広場と快適な滞在空間の創出

- 市民や来訪者が、駅利用や通行以外にも多目的に自由に使える空間・場の創出
- 市民や来訪者の快適な滞在をサポートする機能・施設の充実と積極誘致
- 災害時やイベント時にも配慮した機能・施設の配置

参考事例



国土交通省資料より

日向市駅 駅前交流広場

（宮崎県日向市）

- ・交通広場に隣接して市民が自由に憩えるオープンスペース「交流広場」を整備
- ・構想、計画段階から市民を巻き込む検討体制を構築し、市民意見を可能な限り設計に反映されている



niauhaus HPより

小淵沢駅

（山梨県北杜市）

- ・観光案内所、交流スペースを併設した駅舎を市とJRが協働で整備
- ・駅舎屋上には八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳、奥穂高岳といった日本三大巨峰を一望できる展望デッキが設けられている

1-2 段階的な整備に合わせたフレキシブルな土地利用の実現

- 駅東西間の役割分担、利用者の利便性に配慮した適切な機能・施設の配置を試行しながら柔軟に確保
- 土地所有者との連携による、駐車場等の機能集約や土地の有効利用

参考事例



SOCI inc. HPより

新豊田駅東口広場 新とよパーク

（愛知県豊田市）

- ・市内有志の方と議論を重ね、2度の試行実験を経て、空間と運営方法を検討
- ・最初から造りこまず、舗装やファニチャーを最低限に施し、使い方を確かめながら本格運用していく「ハーフメイド+2段階整備」で整備が進められた



まちなか広場研究会 HPより

豊田市駅東口まちなか広場 とよしば

（愛知県豊田市）※2023年3月供用終了

- ・豊田市駅周辺整備事業の過程で生まれた空地に、暫定的に整備された芝生広場と仮設建築を整備。将来に向けた人の滞留や賑わい創出のチャレンジが約4年に渡り実施された

02 暮らし・観光・ビジネスにおける交通のハブとなる場所を目指します

2-1 駅で分断されない一体性の確保

- 移動だけにとどまらない自由通路
- 西口から駅へのアクセス性の改善（改札口のスマート化）
- まちなかへの歩行を促す動線や空間の創出

参考事例



JR 東日本建築設計 HPより

石和温泉駅 南北自由通路

（山梨県笛吹市）

- ・温泉観光地の玄関口として、市とJRが協働で駅舎、自由通路を整備
- ・駅北側からのアクセス改善の他、周囲の山並み等を見渡せるよう自由通路両端がガラス張りとなっている



WAO 建築事務所 HPより

西鉄柳川駅 東西自由通路

（福岡県柳川市）

- ・水郷柳川の玄関口として、市と西日本鉄道株式会社が協働で駅舎、自由通路を整備
- ・自由通路は、眺望を活かすガラス張りを基調としつつ、市民の情報発信の場として壁面に展示スペースが設けられている

2-2 利用特性や立地特性に応じた交通空間の再編

- 施設立地や道路状況、東西の敷地規模等を踏まえた交通空間の改善
- 利用者属性や多様な交通手段へのニーズを想定した空間配置
- 利用者の安全性・利便性に配慮した歩行者動線の改善

参考事例



北陸の駅 HPより

高山駅 東西駅前広場

（岐阜県高山市）

- ・国際観光都市飛騨高山の玄関口として、東口駅前広場は来訪者を迎え、目的地につなぐ象徴的な空間（回廊広場）を持つ広場として、西口駅前広場は、交通機能を中心とした日常生活広場として整備
- ・東口は、飛騨バスセンターが隣接し、観光地への出発拠点となっている



新高山駅東西駅前広場イメージ



高山市 HPより

03 諏訪の魅力が見える・感じられる場所を目指します

3-1 諏訪湖への視点場づくりと景観づくり

- 他にはない諏訪の魅力「諏訪湖」や「山なみ」等への視点場の創出
- まちの資源を活かした景観づくりと一体的な景観デザイン

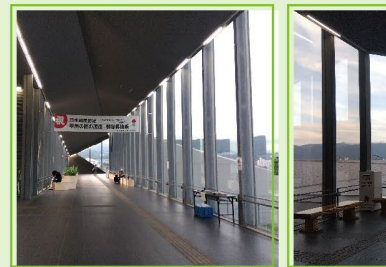
参考事例



日立駅

（茨城県日立市）

- ・太平洋を一望できる海への接近性を活かし、自由通路の東側先端に展望イベントホールが設けられている。眺望だけでなく、情報交流プラザとして、各種情報の発信の機能やギャラリー等の多目的な利用がされている



竜王駅（JR中央線）

（山梨県甲斐市）

- ・自由通路は、全面ガラス張りで、北端には、富士山を望む眺望スペースが設けられている
- ・旧三町の自然・歴史・地形のイメージで駅前を一体的にデザイン

3-2 まちなかへいざなう資源のショーケースとなる場づくり

- まちへの回遊を誘発する、諏訪の自然・歴史・温泉・飲食・ものづくり・まちなみ等の資源のショーケースとなる場づくり
- 諏訪の魅力や施設、活動についての情報発信の充実化
- 目的地やまちの資源へとスムーズに誘導する案内サインの設置

参考事例



武雄温泉駅 武雄旅書店

（佐賀県武雄市）

- ・西九州の旅のスタートとなる駅として、旅に関する書籍を中心に取り揃えた「BOOK&CAFÉ」を設置。西九州のセレクトショップとして、各地の魅力が詰まった商品も多数展開している



やまがた観光情報センター

（山形県山形市）

- ・山形駅直結のランドマークタワー1階にある観光情報センター内に、「やまがた酒巡り」が2024年にオープン。山形県産のワインや日本酒の有料試飲コーナーで、計42種から飲み比べを楽しむことができる

Ⅳ. 機能・ゾーニングの検討について

1. 東西の役割分担（案）について

ミライ像（将来像）（案）とミライ方針（基本方針）（案）を基に、整備基本構想検討にあたり必要な視点（立地特性・課題）や市民が求める機能から東西の役割分担を整理する。

■対象区域の立地特性・課題、市民が求める機能（WSの意見）

西口

- 【特性】・諏訪湖・温泉旅館・美術館、高島城等の諏訪が誇れる観光施設が多く立地
・諏訪湖が隣接する3駅で、最も諏訪湖が近く、観光面でのポテンシャルが高い
・まちの軸線となる柳並線や緑豊かな並木通りを有する
・諏訪湖 SIC 開業（2025年7月27日）による自動車のアクセス性向上

- 【課題】・西側面積約23%を平面駐車場（3箇所/月極と時間貸含め154台）が占め、市民ニーズが高い自由に活用可能な空間や交流に供する空間が不足
・西口改札口がないため、西口から駅までのアクセスが不便
・バス乗降場が西口（10路線62便）と東口（6路線81便）に分かれているとともに、案内サイン等の不足により、乗降場が分かりにくい

【市民が求める機能（WSの意見）】

- ＜方針1＞○多様な人が活動している、又は憩う姿が見られる開放的な屋外空間
○利用者・シーンに応じた屋根・日陰のある空間
＜方針2＞○周辺の施設立地や道路状況、諏訪湖 SIC 整備等を踏まえた西口への交通機能集約や空間改善
○誰でも使える多様な交通手段の確保
＜方針3＞○諏訪の魅力を体感し、まちなか回遊を促す場・動線

駅舎・自由通路

- 【特性】・特急あずさが全列車停車し、長野県第3位（延利用者数約360万人/年）の主要観光地の駅として県内外の来訪者が利用

- 【課題】・西口改札口がないため、西口から駅までのアクセスが不便（再掲）
・駅舎・自由通路とも築年数が20年以上経過（駅舎は大規模改修済）

【市民が求める機能（WSの意見）】

- ＜方針2＞○諏訪湖の眺望等を活かした東西を繋ぐ駅・通路
＜方針3＞○駅東西をつなぐ、駅からまちへの案内・情報発信機能

東口

- 【特性】・昔ながらの歴史を感じる街なみや酒蔵、商店街が集積する末広町等、歩いて楽しむスケールのまち並みが多く立地
・東西自由通路で連絡する商業・公共等の複合施設「アーク諏訪」が立地

- 【課題】・東口は、西口の約1/2の面積で、1.5倍の車両入数が見られ、特に朝夕の一般送迎が多いとともに、自動車と歩行者の交錯が見られる
・地域住民に身近な公園、オープンスペースが不足
・バス乗降場が西口（10路線62便）と東口（6路線81便）に分かれているとともに、案内サイン等の不足により、乗降場が分かりにくい（再掲）

【市民が求める機能（WSの意見）】

- ＜方針1＞○市民が憩い、災害時には避難所となる空間
○笠森小路沿いの既存店舗と連携し、駐車場を活用した賑わい空間
○利用者・シーンに応じた屋根・日陰のある空間
＜方針2＞○送迎しやすさの向上と安全な歩行空間

■東西の役割分担と導入機能（案）

観光のポテンシャルを活かした来訪者のための広域交通結節、自由で使いやすいオープンな広場と快適な滞在空間の創出

- ◎自由で使いやすいオープンな広場と快適な滞在空間
・多様なアクティビティが可能なイベント広場や多くの人が交流できる開放的な芝生広場、等
・快適な滞在をサポートする座り場やカフェ等の飲食施設、等
・災害時における駅利用者の一時避難にも対応した広場、等
- ◎諏訪の魅力を発信する資源のショーケース機能
・諏訪の自然・歴史・温泉・飲食・ものづくりを集めた資源のショーケースの場、等
・諏訪の観光施設、活動を情報発信する情報案内機能や場、等
- ◎来訪者のための広域交通結節機能
・路線バス・送迎バス・タクシー・一般車の西口集約とともに、諏訪湖 SIC 開業による長距離の観光バスや多様な交通手段に対応した交通広場、等
- ◎駐車場、駐輪場機能
・駐車場等の集約による立体駐車場・駐輪場、等

諏訪湖や高島城等の観光資源をつなぐ主要動線の確保

移動だけにとどまらない、諏訪湖への眺望を活かした駅舎・自由通路

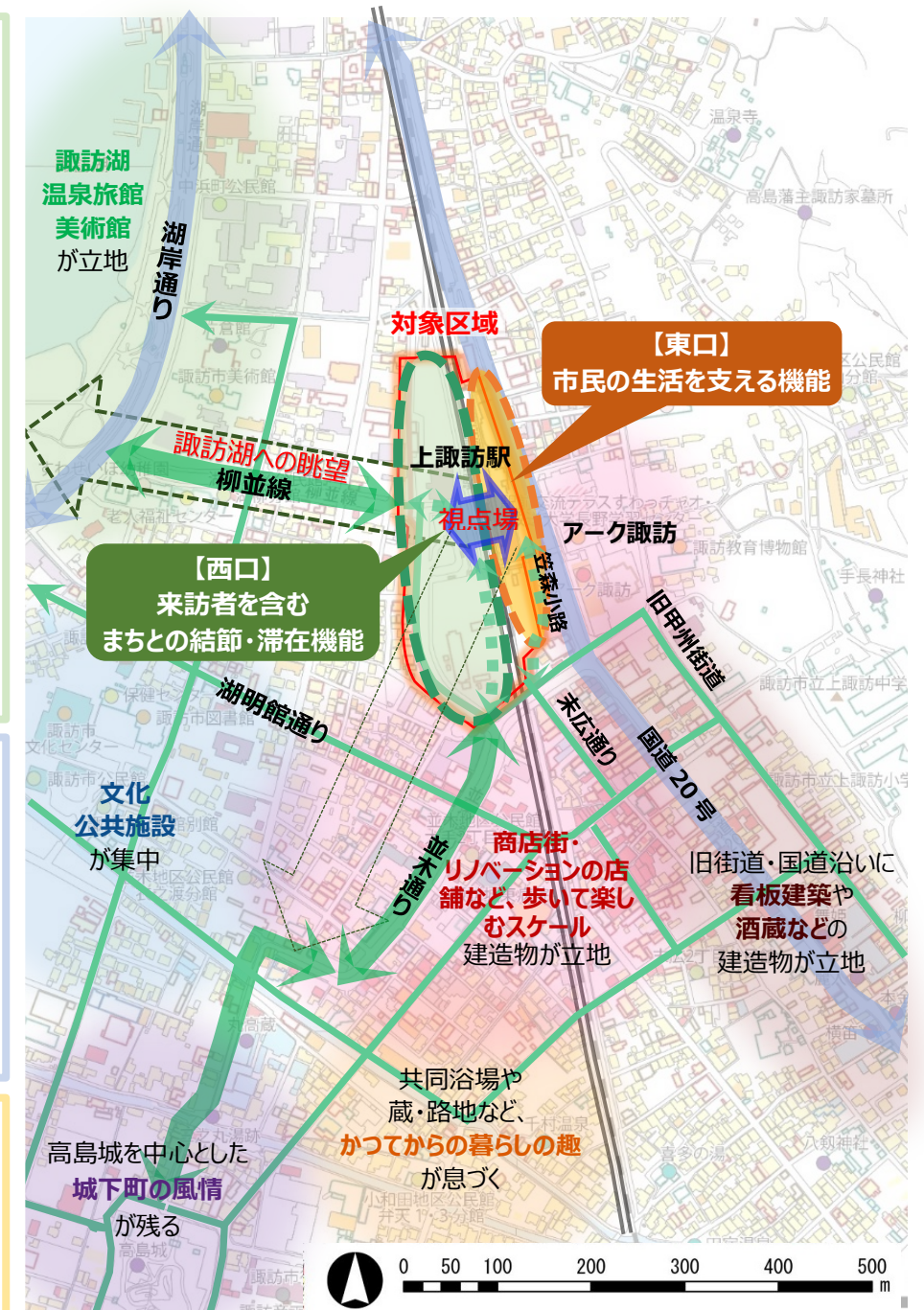
- ◎移動だけにとどまらない自由通路・駅改札口のスマート化
・東西アクセス性向上と併せ、まちへの案内として分かりやすい動線や案内サインの充実、観光や市民活動の情報発信の拠点となる場、等
- ◎諏訪湖への視点場機能
・諏訪湖の眺望の他、電車や駅前での市民活動が見える視点場、等

市民の日常生活を支える交通結節、滞留機能の創出

- ◎市民の憩い・滞留の広場機能
・地域住民が憩える広場、昔ながらの歴史を感じる街なみ等、連続性を意識したまち角の溜まり広場、等
- ◎市民の日常生活を支える交通機能
・必要最低限の一般車の送迎機能、国道20号沿いのバス乗降場を入れた駅前広場、等
- ◎駐車場、駐輪場機能
・駐車場等の集約による立体駐車場・駐輪場

ヒューマンスケールなまちをつなぐ回遊動線の確保

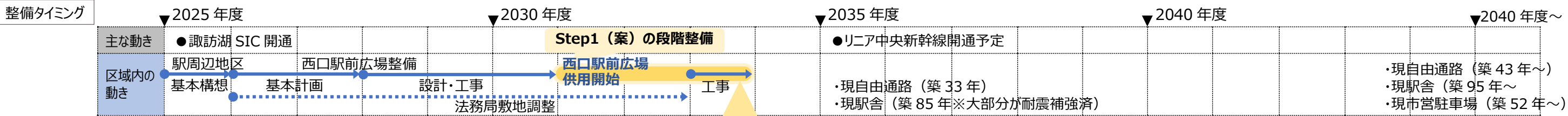
■特性等からみた対象区域の東西の役割分担



IV. 機能・ゾーニングの検討について

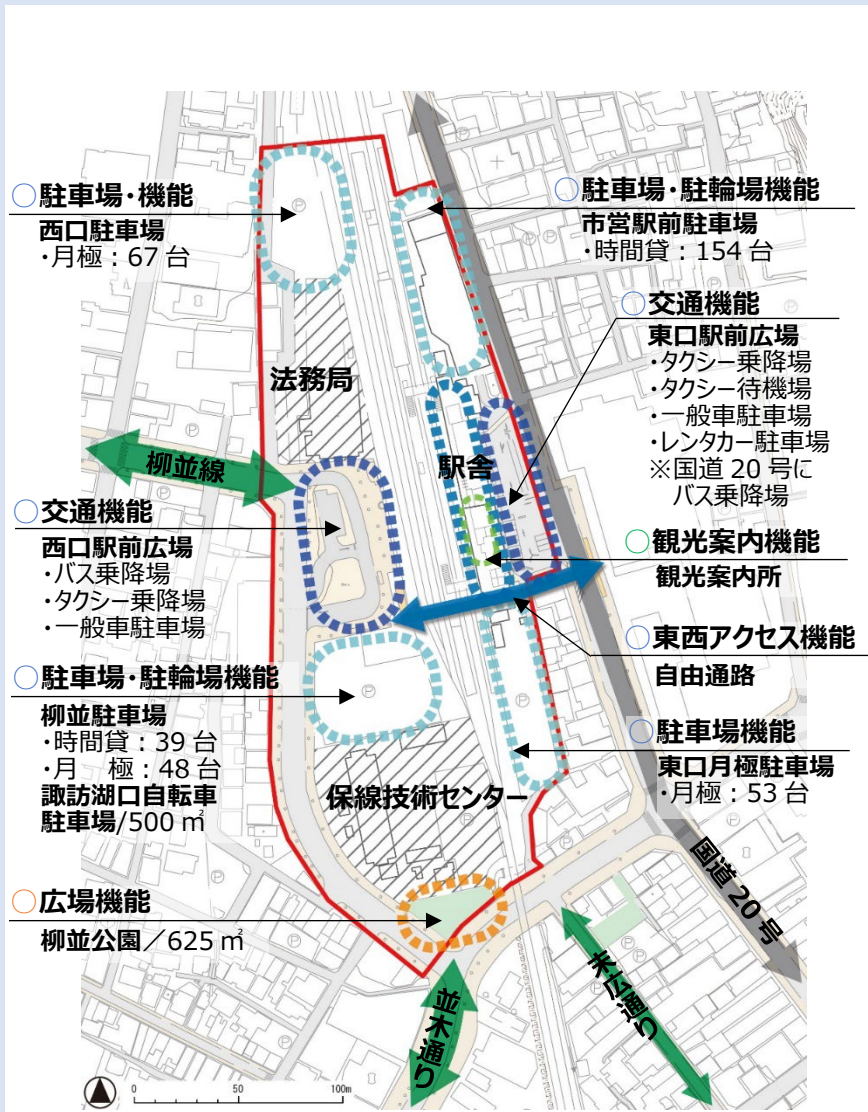
2. 機能・ゾーニング（案）について

前項で整理した「東西の役割分担」を基に、機能・ゾーニングについて段階的な整備展開（Step1、Step2）毎に整理する。



現 況

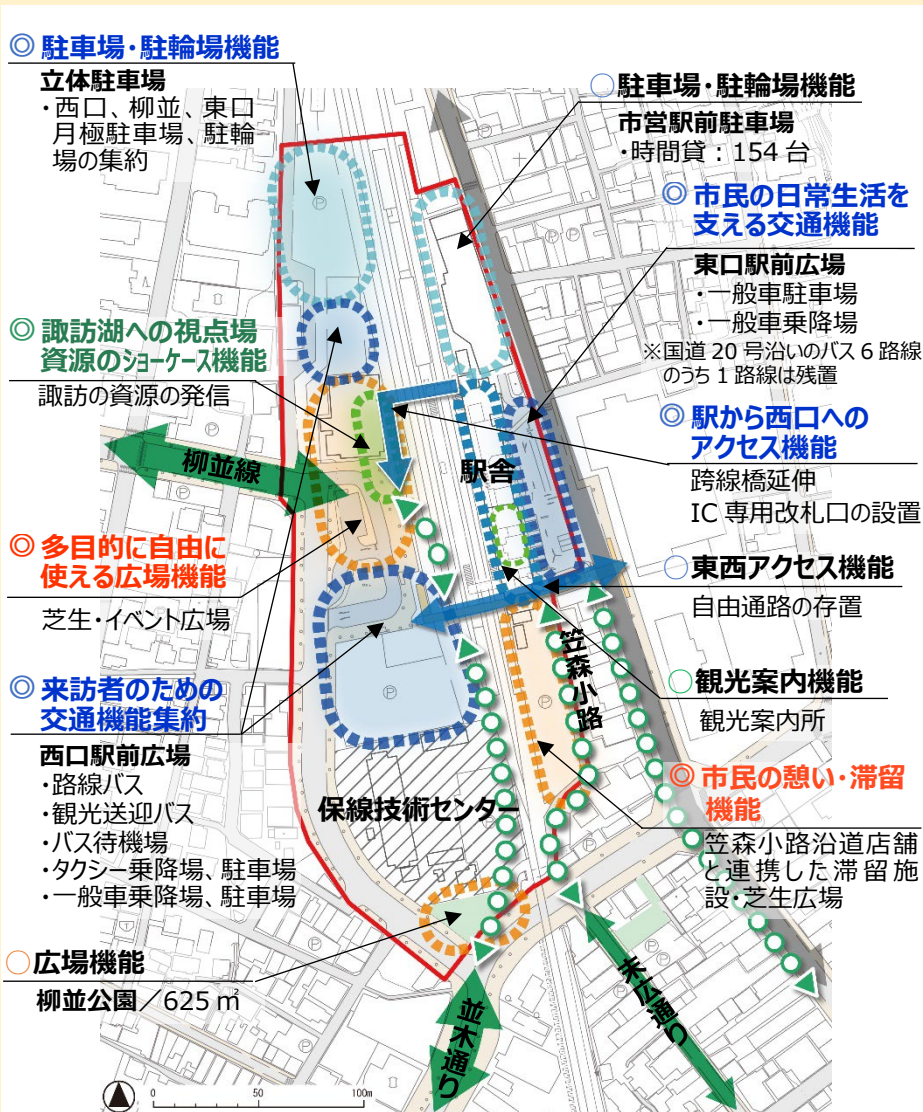
- ゾーニングの課題
- 長野県の主要観光地かつ、諏訪湖に近いポテンシャルを持つ駅であるが、諏訪湖がある西口から駅までのアクセスが不便で、駅からまちへの案内機能、まちに回遊を促す機能、諏訪の魅力発信機能が不足
 - 区域面積の約 23%を駐車場が占め、市民ニーズが高い自由に活用可能な空間等が不足しており、土地の有効活用、機能分担が必要
 - 交通機能は、周辺の道路状況や新たなモビリティ変化、交通事業者の担い手不足に対応した東西規模に応じた交通機能分担が必要



Step 1（案）

現自由通路活用 + 現状交通機能再編案

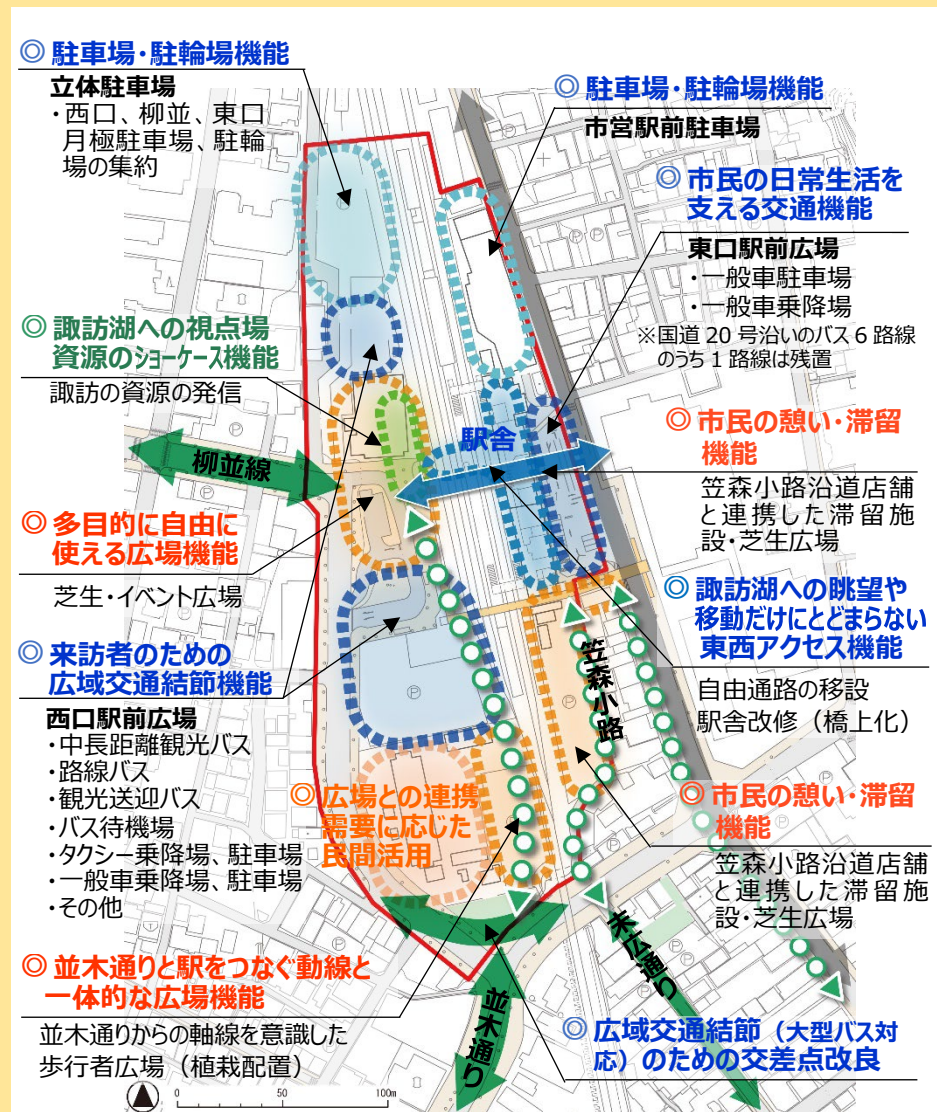
- ゾーニングの考え方
- 自由通路・駅舎は存置、北側跨線橋の改修 + IC 専用改札の設置により西口から駅へのアクセスを改善
 - 平面駐車場、諏訪湖口自転車駐車場の集約と法務局敷地を活用し、西口に来訪者のための交通機能や多目的に使える広場・諏訪湖への視点場・資源のショーケース機能、東口に市民の憩い・滞留機能を配置
 - 西口に公共交通（バス・タクシー）を集約し、東口に送迎対応機能を配置し、交通機能を再編
 - 保線技術センターは存置（将来の変容性・柔軟性を見据えた開発余地あり）



Step 2（案）

自由通路移設・駅舎の一体整備 + 長距離交通機能実現案

- ゾーニングの考え方
- 自由通路を諏訪湖への視点場となる位置に移設、駅舎改修（橋上化）を行い、東西アクセスの改善だけでなく、諏訪湖への視点場や移動だけにとどまらない自由通路、橋上化による駅舎 1 階を活用した快適な滞在機能を実現
 - 平面駐車場、諏訪湖口自転車駐車場の集約と法務局敷地を活用し、西口に来訪者のための交通機能や多目的に使える広場・諏訪湖への視点場・資源のショーケース機能、東口に市民の憩い・滞留機能を配置（再掲）
 - 西口に中長距離交通（大型バス等）対応した公共交通（バス・タクシー）の集約と並木通りと柳並線の交差点改良を実施



IV. 機能・ゾーニングの検討について

3. Step1(案)と Step2(案)の空間イメージ

機能・ゾーニング（案）で示した Step1(案)と Step2(案)への移行を想定した空間イメージを以下に整理する。

本資料は、機能・ゾーニング（案）の補足として、機能・空間イメージを伝えるために作成したものであり、配置計画や建築計画を示したものではありません。

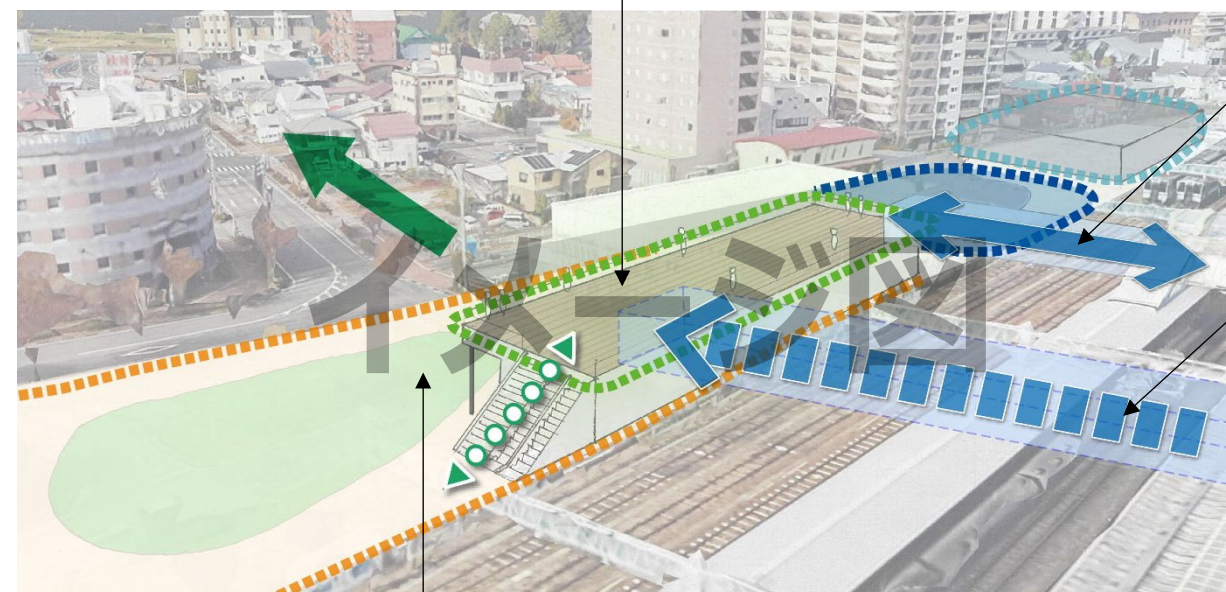
諏訪湖への視点場機能

周囲への視点場となる屋上デッキイメージ



■ 視点場空間の創出イメージ

諏訪湖への視点場となる屋上デッキ



Step1
跨線橋延伸

↓
Step2
自由通路移設・
駅舎橋上化

多目的に自由に使える広場機能

■ 跨線橋・自由通路と西口の繋がりイメージ

交通ロータリー(一般車)

柳並線

アーケ
諏訪

Step1
跨線橋延伸

Step2
自由通路移設、駅舎橋上化

諏訪の魅力を発信する資源の
ショーケース機能（デッキ下階部）

地域の特産品等を販売する
店舗空間イメージ



お酒の試飲等諏訪の魅力が感じられる
場のイメージ



交通ロータリー
(バス等)

多目的に自由に使える広場機能

軒下店舗とつながり自由に使える
芝生広場のイメージ



雨天時も多様な活動を可能とする
デッキ軒下の空間イメージ



1. 市民が求める機能とその空間イメージ（第二回 WS 結果まとめ）

「方針1：だれもが気軽に立ち寄れる・居られる・使える場所を目指します」に関する意見

西口では、空間を広く確保できる特徴を活かし、“市民や来訪者が多目的に使える場”や“自由に過ごし、居られる空間”として、多様な人が活動している、又は憩う姿が見られる開放的な屋外空間が求められている。
東口では、笠森小路沿いの店舗と連携し、まちなか回遊につながる駐車場の有効活用が求められている。住宅があるエリア周辺には地域住民が憩い、災害時は避難所として機能する空間が求められている。

- ・西口では、特に対象区域南側において、発表やスポーツ、マルシェ等活動の場の他、静かに過ごせる屋外空間が求められている。屋外空間では、居住者だけではなく、観光客も対象とした案内機能や滞留機能の必要性も挙げられている。
- ・東口では、笠森小路前駐車場を活用し、周辺店舗との連携を図りつつ飲食等の賑わい空間を創出が求められている。また、住宅がある東口に平時は憩い、災害時には避難所として機能する空間が求められている。

多様な利用者、シーンに対応した屋根や日陰がある空間が求められている。

- ・気軽に利用・会話することができ、気候の影響が少なく、雨天時の利用や避暑スペースにもなる空間が求められている。

諏訪湖等の資源が位置する西口に求める機能

多様な人々の活動・憩う姿が見られる開放的で多目的に使える屋外空間

【主な意見】

- ・音楽発表ができるスペース
- ・活動が見えて、スポーツができるスペース
- ・まちなかとアクセス性が良く、並木通りからも活動の様子が見える柳並公園にイベントスペース
- ・並木 DE コンサート等ができる場は残したい
- ・屋外でも屋根があれば雨天時の対応や災害時の避難スペースにもなる

R6年度 社会実験



【ミライ方針との対応】

- 市民や来訪者が、駅利用や通行以外にも多目的に自由に使える空間・場の創出
- 市民や来訪者の快適な滞在をサポートする機能的施設の充実と積極誘致
- 災害時やイベント時にも配慮した機能・施設の配置

エリア関わらず駅周辺に求める機能

利用者・シーンに応じた屋根・日陰のある空間

【主な意見】

- ・諏訪湖に向かう途中に日影のある屋内で休憩したい
- ・すわっちゃおは気軽に会話できる雰囲気ではないから、屋根のあるところで気軽に友人たちと会話したい
- ・15分都市の圏内にない本屋とスポーツ施設

ミュージアムはっち（青森県）



【ミライ方針との対応】

- 市民や来訪者が、駅利用や通行以外にも多目的に自由に使える空間・場の創出
- 土地所有者との連携による、駐車場等の機能集約や土地の有効活用
- 駅東西間の役割分担、利用者の利便性に配慮した適切な機能・施設の配置を試行しながら柔軟に確保

既存施設が立地し、空間が制限されている東口に求める機能

市民が憩い、災害時には避難所ともなる空間

【主な意見】

- ・歩行、賑わい空間を充実させ、地域の人が使える静かなスペース
- ・普段は地域住民が憩い、災害時には避難所としても機能する公園

社会実験「みんなのひろば」（松山市）



出典：ソトノバ

【ミライ方針との対応】

- 市民や来訪者が、駅利用や通行以外にも多目的に自由に使える空間・場の創出
- 災害時やイベント時にも配慮した機能・施設の配置

笠森小路沿いの既存店舗と連携し、駐車場を活用した賑わい空間

【主な意見】

- ・笠森小路にある既存店舗と連携した敷地を活用して、少し怪しい雰囲気飲み屋街を歩きたい
- ・笠森小路前は駐車場にしておくにはもったいなく、イベント等活用できる場とすることでまちなかの店舗への誘導にもなる

甲府夢小路（山梨県）



出典：甲府観光局

【ミライ方針との対応】

- 市民や来訪者が、駅利用や通行以外にも多目的に自由に使える空間・場の創出
- 土地所有者との連携による、駐車場等の機能集約や土地の有効利用

「方針2：回遊しやすい交通のハブとなる場所を目指します」に関する意見

諏訪湖の眺望を活かし、西口から駅へのアクセス性を改善する東西を繋ぐ駅・通路が求められている。

・西口からのアクセス性向上には、西口改札整備の意見もある一方で、諏訪湖・電車・駅前の活動が見える場や活動の場としても機能する駅の橋上化や自由通路が求められている。

周辺の施設立地状況や道路状況、東西の敷地規模、諏訪 SIC 整備等を踏まえた西口への交通機能集約や空間改善が求められ、東口の送迎機能の充実と安全な歩行空間が求められている。

・まちなか回遊促進や駅利便性向上のため、西口へのバスターミナルや交通ロータリー、駐車場整備等の交通機能の集約・整理が求められている。

・東口には、送迎などの市民向けの交通機能や、歩行環境の改善、東口駅前広場へのアクセス性改善が求められている。

駅から公共交通や徒歩以外の交通手段の確保が求められている。

・レンタサイクルの他、高齢者まで幅広く利用できる移動手段が求められている。

西口駅前広場等空間に求める機能

周辺の施設立地や道路状況、諏訪 SIC 整備等を踏まえた西口への交通機能集約や空間改善

【主な意見】

- ・回遊の出発点となる大型駐車場
- ・広い敷地を持つ西口にまちなか回遊を促すため、交通機能が集約された交通広場
- ・周辺の整備を考慮したバスターミナル
- ・まちなか回遊を高めるレンタカー、サイクルステーション

高山駅整備イメージ（岐阜県）



出典：高山市 HP

【ミライ方針との対応】

- まちなかへの歩行を促す動線や空間づくり
- 施設立地や道路状況、東西の敷地規模等を踏まえた交通空間の改善
- 利用者属性や多様な交通手段へのニーズを想定した空間配置

東口駅前広場に求める機能

歩行者動線と車両動線の交錯の解消

【主な意見】

- ・学生等の市民が安全に駅を利用できるように送迎動線の整理
- ・東口駅前広場は歩行空間が狭くて危険なため、安全で自由に歩ける歩行空間や広場

上諏訪駅東口駅前広場



【ミライ方針との対応】

- 施設立地や道路状況、東西の敷地規模等を踏まえた交通空間の改善
- 利用者の安全性・利便性に配慮した歩行者動線の改善

エリア関わらず駅周辺に求める機能

誰でも使える多様な交通手段の確保

【主な意見】

- ・アプリ予約可能なレンタサイクルスポット
- ・幅広い世代で利用できる移動手段
- ・電車から自転車へのスムーズな乗換のため、駅に近接するレンタサイクル

小諸市「スマート egg」社会実験



【ミライ方針との対応】

- 施設立地や道路状況、東西の敷地規模等を踏まえた交通空間の改善
- 利用者属性や多様な交通手段へのニーズを想定した空間配置

駅舎又は自由通路に求める機能

駅東西を繋ぐ駅・通路

【主な意見】

- ・自由通路や駅の橋上化で駅とアーク諏訪を直結
- ・駅東西の連絡性向上のため、西口と東口の両方に改札を設ける
- ・ピアノ演奏や展示などでもできる広い空間を有する駅
- ・東西のアクセス性向上のため、改札のある自由通路

茅野駅



【ミライ方針との対応】

- 移動だけにとどまらない自由通路
- 西口から駅へのアクセス性の改善（改札口のスマート化）

「方針3：諏訪の魅力が見える・感じられる場所を目指します」に関する意見

駅舎、又は諏訪湖や旅館街のある西口に諏訪の魅力を感じ、まちなか回遊を促す場の創出が求められている。

・まちなか回遊を促すため、西口方面に位置する諏訪湖の眺望や旅館街への連続性、まちなかの案内機能を有する空間が求められている。

多様な来訪者に諏訪のことを伝える場が求められている。

・駅東西で異なる諏訪の資源の特徴を踏まえ、まちの歴史や資源へ案内する機能が求められている。

来訪者の利用を踏まえ、西口に求める機能

諏訪の魅力を体感し、まちなか回遊を促す場

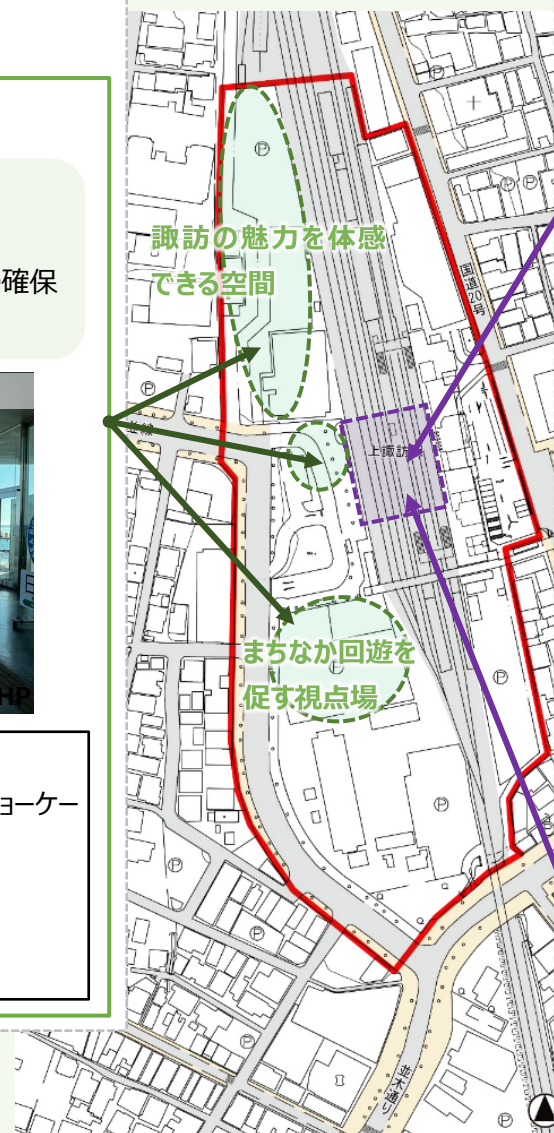
【主な意見】

- ・屋根付きの足湯のような、旅館街がある西口に諏訪を感じられる空間があると良い
- ・諏訪湖や高島城が見える展望施設から、まちなかの資源や店舗に誘導する案内や動線の確保
- ・諏訪湖や旅館街と駅舎を繋ぐ柳並線周辺に、諏訪を体感できる複合施設



【ミライ方針との対応】

- まちへの回遊を誘発する、諏訪の自然・歴史・温泉・飲食・ものづくり・まちなみ等の資源のショーケースとなる場づくり
- 他にはない諏訪の魅力「諏訪湖」や「山なみ」等への視点場の創出
- 目的地やまちの資源へとスムーズに誘導する案内サインの設置
- まちの資源を活かした景観づくりと一体的な景観デザイン



東西を繋ぐ駅舎又は自由通路に求める機能

駅東西の特性を活かし、交通機能と連携した案内・情報発信機能

【主な意見】

- ・電車から降りたところで、諏訪のディープな魅力を伝えたい
- ・西には諏訪湖、東には霧ヶ峰のように東西で役割分担をした観光案内機能
- ・様々な来訪者が利用できるまちのコンシェルジュ機能
- ・五蔵 PR のため、気軽に立ち寄れる試飲スペース



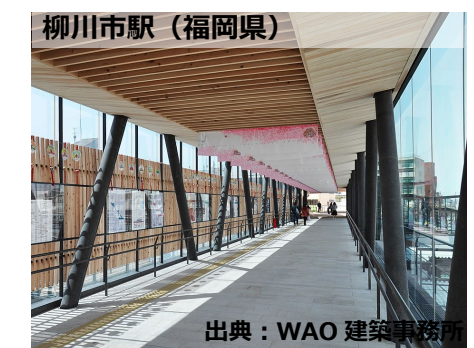
【ミライ方針との対応】

- まちへの回遊を誘発する、諏訪の自然・歴史・温泉・飲食・ものづくり・まちなみ等の資源のショーケースとなる場づくり
- 目的地やまちの資源へとスムーズに誘導する案内サインの設置
- 諏訪の魅力や施設、活動についての情報発信の充実化

諏訪湖や山なみの眺望を活かした駅舎・自由通路

【主な意見】

- ・通信用だけでなく、諏訪湖の眺望も活用した自由通路
- ・諏訪湖を眺望できる自由通路
- ・諏訪湖が一望できる広い空間がある駅舎
- ・西口への新たな視点場創出やすわっチャオの展望空間を繋げる



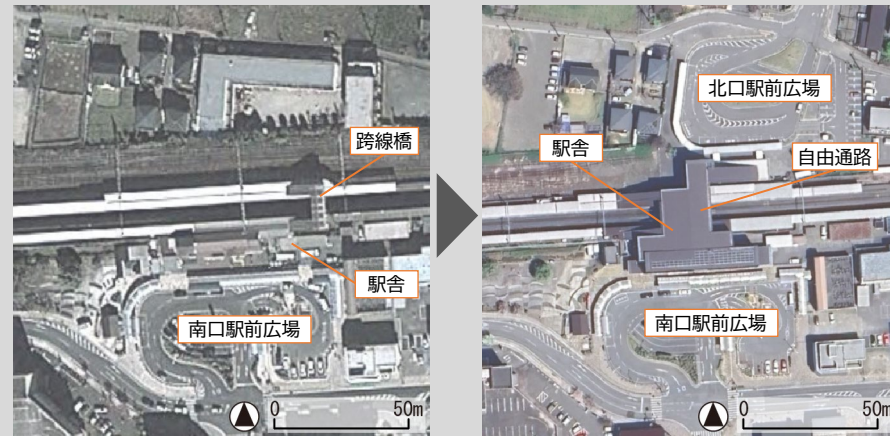
【ミライ方針との対応】

- まちへの回遊を誘発する、諏訪の自然・歴史・温泉・飲食・ものづくり・まちなみ等の資源のショーケースとなる場づくり
- 他にはない諏訪の魅力「諏訪湖」や「山なみ」等への視点場の創出
- まちの資源を活かした景観づくりと一体的な景観デザイン

2. 駅舎橋上化事例

石和温泉駅(山梨県笛吹市) ※上諏訪駅と同じ JR 中央本線	
■概要	
市町村人口	16.1 万人
駅乗降客数	5,010 人/日(JR 中央本線)
整備規模	橋上駅舎(2015年):延約 1,740 ㎡
	自由通路(2016年):全長 109m/幅員6m
	北口駅前広場(2016年新設):3,600 ㎡
	南口駅前広場(2010年改修):3,600 ㎡
設計～竣工	2007 年頃～2016年(約 10 年)
概要	背景
	将来像
	特徴

■新旧比較(Google Earth より)

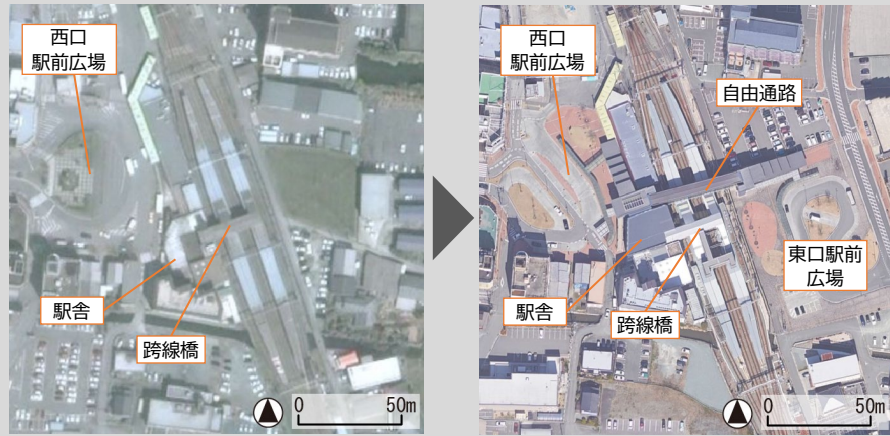


■写真



西鉄柳川駅(福岡県柳川市) ※諏訪市と同程度の人口規模	
■概要	
市町村人口	5.6 万人
駅乗降客数	10,904 人/日(西鉄天神大牟田線)
整備規模	橋上駅舎(2015年):延約 1,360 ㎡
	自由通路(2015年):全長 120m、幅員4m
	西口駅前広場(2015年改修):3,900 ㎡
	東口駅前広場(2015年新設):4,400 ㎡
設計～竣工	2009年～2015年(約7年)
概要	背景
	将来像
	特徴

■新旧比較(Google Earth より)

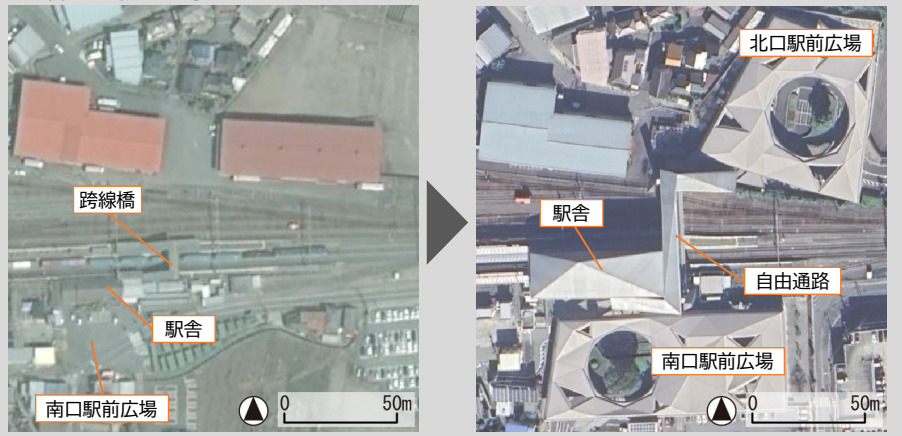


■写真



竜王駅(山梨県甲斐市) ※上諏訪駅と同じ JR 中央本線	
■概要	
市町村人口	7.6 万人
駅乗降客数	4,290 人/日(JR 中央本線)
整備規模	橋上駅舎(2008年):延約 720 ㎡
	自由通路(2008年):全長 120m/幅員6m
	北口駅前広場(2010年新設):5,085 ㎡
	南口駅前広場(2010年改修):5,080 ㎡
設計～竣工	2005年～2010年(約6年)
概要	背景
	将来像
	特徴

■新旧比較(Google Earth より)



■写真

